



Title	巨大な自然を相手に押し流されないで
Author(s)	齊藤, 洋
Citation	makoto. 1979, 26, p. 10-12
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86130
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

巨大な自然を相手に

押し流されないうで

豊中市下水道部

作業課長

斉藤 洋

(1) 正しい解決策とは

行政は、執行機関であって検査研究機関でないので、事業の検査業務が概して遅れがちでありお座なりな部分も多い。このことは、住民側から問題が提起され、充分に研究を重ねてから執行する時間的な猶予がとれないからであろうが、とりあえず問題の一時解決をはかりながら、本当の解決を立てていくのが通常である。

だが、最近の行政に対する住民の指向は、行政の対応の鈍さに対し、住民の側から一定の解決策を考へてとして組み立て問題の提起をされる事が多く、ますます開かれて行くであろう行政に対して住民の考え方に振りまわされるといふ傾向の強まるこ

とが予想できる。
住民が、行政に対して無関心になることを望むのではなくて、住民参加がますます計られるこ

れからの傾向に対して、行政は目先の解決に目を奪われていてはならない。

このために行政の中に予知能力を蓄え、住民から問題提起を待たず事前に施策を実施していくことである。

(2) 結果を恐れないで

簡単に予知すればいいと云つても中々難儀なことである。

特に、行政の場合、事実に基づく事業を想定し、その事業にむけて検査の必要性を充分徹底させ、手続をふんで検査の予算

の計上を認めて貰つてまた手続をふんで実施し、結果をみた上で何度も軌道修正をはかり正しく予知するのである。

これだけの順序や手続き中では反対もあり、理解を得られない場合も多い。

まよ、やつてもやらなくても給料に変わりなしとつい挫けそうになる場合もある。

予測した結果とは全く違った結果が迫つてきて押しつぶされそうになる場合だつてある。

こんな時、順調に進行しているときの何倍も疲労し、投げ出したくなる衝動をおさえ問題を一つ一つ片付けて行かねばならないのである。

(3) 批判はかわさないで

この中で大切なことは、結果を恐れないことで、結果を積み重ね、潜在意識にこだわらず正視して受けとめることである。

(4) 住民に理解を求めて

そこで、解決策を見出したら一直線に進むことである。

行政には金がかかる。

事業を進める上で当然財源的制約の影響は受ける。折角、大変な労力とねばりで科学的に割り出した基礎資料を添付し要求しても、「この程度」などという抽象的な予算の配分を受ける

ことの方が多い。

兎にも角にも、解決の方にむ

かつて猪突猛進である。
そして、解決策に対する成果を確めることである。

これとは別に、問題が提起された時点で一時的な解決をしているが、本当の解決策と軌道が違った場合、躊躇することなく軌道修正をはかるべきで、この場合、地域住民との間に問題解決に対する考え方に差違が生じ批判を受けることがある。

批判は、かわしてはならない。

差違を埋める努力をすべきである。

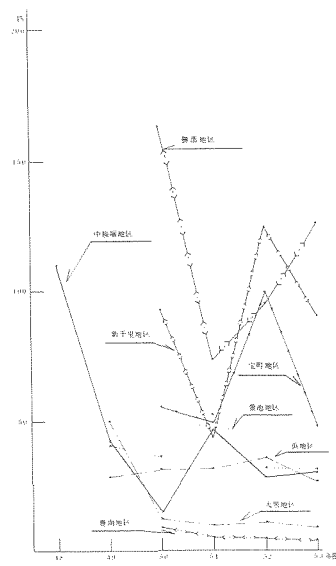
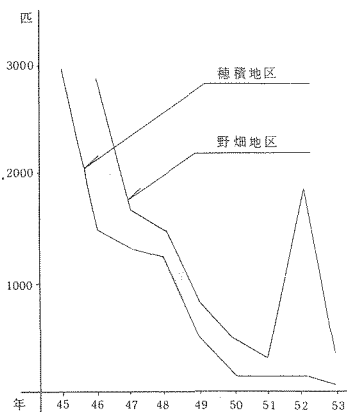
差違を埋めるものは、お互い意見を充分交し合つて理解すること、正しいからといって意見を押し付けていたのでは差違を埋めることにはならなくて批判ばかりが姿をかえて出て来ることになる。

(4) 住民に理解を求めて

豊中市においては、そ昆業務で実際に一年の計画を立てて実

ドライアイスライトトラップ
による蚊の捕集数

(豊中市における蚊の捕集で最も捕獲数の多い農村地区の最高値を年次別に表わした表 日没から1時間の捕獲数)



施している事業は、蚊の駆除と
ねずみを少々駆除している程度
である。

蚊の駆除は、多角的に取り組
み、これらの事業効果の検索に
も多額の予算を割いている。

現在では、市内一〇カ所に六

月末から九月中旬まで毎週月曜

・金曜日の日没から一時間、イ

エカ系の蚊をドライアイスで集

めるドライアイスライトトラッ

プを仕掛け捕獲し、その捕獲数

や種類によって一定の資料とし

ているが（別図参照）、住民地

域の二カ所で連日無捕獲日が続

き、防虫網網戸がはずされてい

る地域がある。

この地域の地域団体役員から

数年前まで、定期的に駆除とは

別に、毎年一回、定期駆除以外

に特別な薬剤散布の申入れがあ

り、われわれとしては非常に不

満であるが、政治的な圧力もあ

って実施させられていた。

昭和五十一年もまた申入れがあ

った。

私等はガマンしきれず、団体

を訪問し、検索の結果をつきつ

け方針を説き、将来の薬害問題

に対する意見を付け加え理解を

得て、団体活動として「映画と

に対する住民の理解も深まり、
ここ二・三年、苦情も減ったし
特別な散布もやらなくなった。

全市的にも昭和五二年度から、

住民組織の組織再編成を實行し、

現在、「ねずみ・害虫駆除推進

地区」とし、

① 資料の配付

② 勉強会の開催

③ 調査の協力

④ 地域の適正な駆除計画の
樹立

という四つの活動をお願いし、

①では、そ昆通信「コントロ

ール」という新聞を年四回発行。

②では、各地区に呼びかけ、

現在まで五〇数回の勉強会に成

功。

③は、まだ充分消化活用され

ていないが、ゴキブリ調査を二

件実施。

④では、各地域の実情に応じ

た駆除計画に画一的な駆除を改

め、地域から住民の声を多く聴

き互いに話しあい、役所の方針

を細かく説明し理解を得るよう

すすめている。

(5) 現状は

しかし、全体の組織団体数は

二七六団体、七〇、八八一世帯

で地域の考え方や住民の意見が

か組織されていないのでまだま

だの感がある。

事実、蚊に対する苦情は次の

ように減少の傾向にある。

昭和50年	172件
昭和51年	92件
昭和52年	82件
昭和53年	56件

が、苦情は、年間五五〇件弱
で定着し、最近では、毛虫、シロ
アリ、蜂などに対する苦情が多
くなりつつある。
最近五年間の苦情ワースト10

害虫苦情（5年間の集計） ワースト10	1位 毛虫 566件 (31%)
	2位 蚊 440件 (24%)
	3位 蜂 169件 (9%)
	4位 シロアリ 168件 (9%)
	5位 ユスリカ 117件 (7%)

6位 ハエ 85件	7位 アリ 64件	8位 ノミ 47件	9位 カメムシ 43件	10位 ダニ 26件	12位 コキブリ 20件
-----------	-----------	-----------	-------------	------------	--------------

であり、月別の苦情数順位は、

月別順位（5年間）	1位 5月 370件 (20%)	2位 6月 330件 (18%)	3位 7月 283件 (16%)	4位 8月 275件 (15%)	5位 9月 172件 (9%)	12位 2月 7件（最低）
昭和49年4月から昭和54年1月までの害虫苦情受付総数	1,802件					

7月中に申し出のあった蚊に関する苦情件数21件	現地調査の結果	公共的発生源	水路など	公共的発生源	草むらなど	個人の敷地内	タイヤの放置	空カンの放置	バケツの放置	空家	会所	オモチャ放置	植木鉢
		2件	4件	6件	4件	4件	4件	2件	2件	2件	2件	2件	1件

であり、減少していない。
このことは、商業新聞、ラジ
オ、テレビに積極的に資料の提
供や出演をはかり、広報「とよ
なか」の特集や掲載を進め、コ
ントロールや勉強会で要求や相
談を掘りおこし、住民の信頼と
理解を得ている結果と考え、自
己満足している面もある。

(6) 実情は

都合のいいように解釈し自己
満足している反面、昨年七月の
蚊に対する苦情を追跡してみる
と、

古井戸 1件
計 16件

※苦情件数21件で結果件数22件は、公共発生源の水路と、個人敷地内のタイヤ放置が同じ申出件数で重複していたため。

こんな結果である。

まだまだ、われわれの考えている、少しでも蚊を少くして住み良い環境をつくらうとしていることが行き届かない。

蚊だけでもこんな状態で、他に二〇数種にのぼる昆虫の生態から駆除に至る仕事である。

三月にはユスリカ、四月には毛虫とシロアリ、五月には、シロアリと蚊がはじまる。六月以降一月まで苦情が集中し即日翌日処理に奔走するのである。

その他、薬剤の安全性問題、適正な駆除、時には、蛇や、鼯（なまこ）まで相談が飛び込み、三〇名が息づく暇もない。

その上、蚊の捕獲テストや新薬の検査、タップミノウの飼育、ゴキブリの飼育である。

(7) ねずみの駆除

ねずみの駆除や越冬成虫蚊の駆除は一月から三月にかけて実施

する。

豊中市におけるねずみの駆除は、住民の協力なしには効果は期待できないので、昭和四八年までは、殺そ剤の無料配付と駆除の指導だけで来たが、其の後、器具（金網カゴ・シャーマントラップ）の貸し出しや、下水マンホール内にブロックペイトを仕掛ける事業をはじめたその結果は、下表のとおりで、この表で注目して頂きたいのは、表の上部に記載してある事業がはじまることにより、捕獲ペースが一段づつ落ちていくことです。

私等は、これを事業の成果と考えているし、公衛研に送り込んだ検体（ねずみ）から薬物反応の報告を受けています。

(8) 最後に

そ族・昆虫の駆除に関するごと一行で市条例規集に規定されているが、担当するわれわれの仕事は、大自然というところもない巨大な力をもつ生ものを相手に、人の独善的な住み良い環境を片隅の方にでもつくらせていただくとする仕事です。いくらやっても遅々として進まない対策にとすれば押しつぶされそうになる。

逆に考えれば、とてつもない巨大なものに対峙しているから

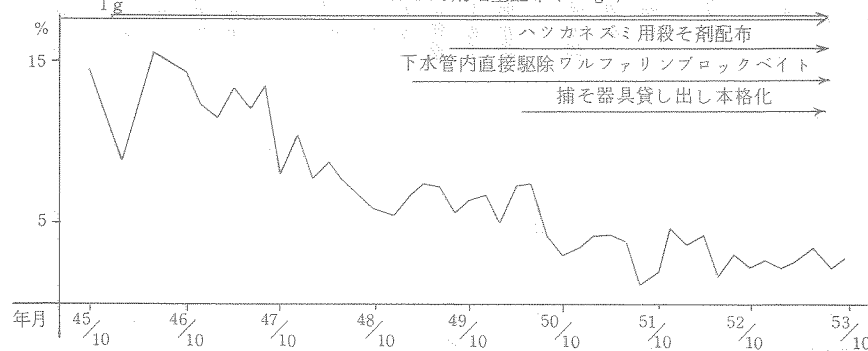
こそ闘志をかき立てなくてはならない。

この事業を進める上で、検索に検索を重ねる程奥深いことに驚くが、それだけ面白く、確かめることによつて自信を持って、独創性を発揮し、本當の解決をはかり、住民とともに住みよい環境の確立に希望をもつて進みますよう。

機会があれば、事業の具体的な内容を紹介することをお約束します。

下水道におけるねずみ捕獲割合と市の駆除対策

ドブネズミ用殺そ剤増量配布（3g）



捕獲したねずみの匹数から推定して、豊中におけるドブネズミの生息数は、約八分の一に減少したものと思われる。

お知らせ

当協会事業部では次のとおり血清（治療剤）を常備しております。

- ガスエソ抗毒素（国有ワクチン払下品）
- 乾燥破傷風抗毒素
- 乾燥まむし抗毒素
- 保管場所

東大阪市中小阪五丁目十六番三号 防疫資材部
☎（06）七二四一〇五三（代）



★表紙の「菜の花」の写真は着本阪南所長が、和泉市桑原町で撮影したものです。

★本冬は、一般の予想に反し異例の暖冬、しかも降雨量が少く、今夏の渇水も心配されます。今はただ、私等の生活を脅かす事例の末発生を祈るのみ。

★東大阪市、川口先生、豊中市、斉藤先生共に年度末のご多忙中にもかかわらず、本紙の為に貴重な時間をさいて戴き有難うございました。厚くお礼申し上げます。（児玉）